

脚 本 名	ひと夏の肖像
作 者 名	向井 瞬
上 演 学 校 名	県立秦野高等学校
あ ら す じ	セミの音が騒がしいある夏。鉛筆を走らせる音が響く美術室に正反対の二人。肖像を通して見えてくるお互いの姿とは――。
作 者 連 絡 先	dreamfactory132@gmail.com (向井瞬あて)
備 考	第 61 回大会

ひと夏の肖像

作・向井
瞬

登場人物

片倉

玖未

(高校二年女)

丸井

未由

(高校二年女)

夏休み中の高校の美術室。机と椅子がまばらにある。

その一つに片倉が座り、本を読んでいるが、チラチラと視線を外し落ち着きがない。

やがて丸井が入ってくる。

片倉
……あ。

丸井
……誰？

片倉
……あの、補習、一緒にやれって。

丸井
誰、って聞いたつもりだったんだけど。

片倉
……三組の、片倉。

丸井
片倉？ ……ああ。

片倉
……えっと、丸井、さん？

丸井
知ってるんだ。私のこと。

片倉
さつき先生から聞いて……。

丸井
なんだ。……まあそりゃそうか。

片倉 ……？

丸井 三組の丸井未由。よろしく。

片倉 え、あ、その……ごめん。

丸井 謝るとこじゃないでしょ。私もなんだから。

片倉 あ、うん。そうだね。

丸井 小川は？

片倉 え？

丸井 小川。美術の。

片倉 ああ、小川先生。……なんか片付けなきゃいけない仕事があるからって。

丸井 はあ？ わざわざ夏休みに呼んどいてなんなのそれ。帰っていいわけ？

片倉 えっと、だから一緒にやれって言われてて。

丸井 なんなのその一緒について。

片倉 あ、絵を描くんだって。

丸井 なんの。

片倉 肖像画。お互いの顔を描くってことなんだけど。

丸井 ……小川に私は帰ったって言っというて。

片倉 ちょ、困る。私一人じゃできないし。

丸井 本気で言ってるの？ 全然知らん奴の絵を描けなんて。頭おかしいんじゃないの。

片倉 私に言われても……。

丸井 普通に考えて無理でしょ。あんただってそう思うでしょ？

片倉 ……私は、やらないとどうしようもないから。嫌だからやらないってわけには、ちょっとと。

丸井 ……。

片倉 丸井さんもそうなんじゃないの？

丸井 ……（ため息。片倉の持っているスケッチブックを指して）それ。私のもあんでしょ。

片倉 ……あ、うん。（渡す）

丸井 ほんと最悪。

片倉 ……ごめん。

丸井 ……何？

片倉 私がいたからこんなことになっちゃって。一人だったらきつと違う課題が出たよね。

丸井 何それ。遠回しに私に文句言ってるの？

片倉 え？

丸井 私がいなければ自分ももつと楽だったってことでしょ？

片倉 いや、そんなつもりじゃ……。

丸井　　こんなの小川が悪いに決まってるじゃん。わざとやってんだよ。あいつ生徒に嫌がら

せして喜んでる真性のMだから。

片倉　　M？　　そういうのSっていうんじゃないの？

丸井　　嫌がらせをチクられて、教育委員会とか校長とかに怒られるのが嬉しいんだって。

片倉　　……へー。

丸井　　だいたい肖像画って言うけどマスクしてる顔描くの？

片倉　　ああうん。マスクは取るなって。

丸井　　肖像画じゃなくてマスク画じゃんそんなの。

片倉　　……あ、うん。そうだね。

丸井　　……。　　(舌打ち)

片倉　　……え、あの……。

丸井　　さっさと始めよ。早く帰りたい。

片倉　　あ、うん。

二人、少し離れた席に座って準備をする。

片倉　　……えっと、どっちから描く？

丸井 は？

片倉 あ、丸井さんからだよ。どうぞどうぞ。

丸井 ……いや、同時に描けば良くない？

片倉 え？

丸井 なんかポーズとか指定されてんの？

片倉 いや、お互いの肖像画ってことしか…。

丸井 じゃあ別に描いてるところ描いたって問題ないじゃん。顔描ければ文句ないでしょ。

片倉 ……確かに。…じゃあ、そういうことで。

二人、絵を描き始める。

片倉、顔を紙に付くくらい近づけて描く。

丸井、最初はなんとか描こうとするがあまりにも片倉の顔が見えないので手が止まる。

間。

丸井 ……あのさあ。

片倉 ……あ、何？

丸井 顔。見えないんだけど。

片倉 え？ ああ、ごめん。

片倉、顔を正面に向けたまま目だけを必死に下に向けて描く。

丸井、片倉の奇異な動作に眉をしかめるが、そのまま描き続ける。

片倉、無意識のうちにだんだん顔が下がっていき、結局先ほどと同じ姿勢で

描く。

間。

丸井 ……わざとやってんの？

片倉 ……え？ あ、ごめん……。

丸井 ……もういいから、先描いて。

片倉 え、でも……。

丸井 いいから。

片倉 ごめん……。

片倉、おずおずと描き始めるが、すぐまた同じ姿勢になる。

間。

丸井 ……片倉ってさ。なんで学校来ないの？

片倉 ……いや、特にこれっていうのがあるわけじゃないんだけど。

丸井 ……だけど？

片倉 ……なんとなく行きたくないなーっていうのが続いてそのまま引きこもっちゃった感じ。ははは。

丸井 何笑ってんの？

片倉 え？

丸井 今のなんか面白い話だったの？

片倉 いや、そういうわけじゃ…。

丸井 面白くないのに笑うのやめなよ。

片倉 ……。

丸井 ……手、止まってるよ。

片倉 ……。

片倉、描き始めるが、先ほどのように顔を近づけて描くことはしない。

それを見て丸井も絵を描き始める。

丸井 ……この前バスに乗って出かけたんだけど。

片倉 ……？

丸井 乗るときに前の人がICカードをタッチしようとしてただけど何回やっても反応しないわけ。後ろ結構並んでたからだんだん焦ってきて必死に押しつけて。…私からは見えてただけど、その人自分の免許証当てたんだよね。

片倉 ふふっ。

丸井 何笑ってんの？

片倉 いや今のはそっちから笑わせに来てたよね！

丸井 そうだけど。

片倉 ええ……なんなの？

丸井 普通にツッコめるじゃん。

片倉 え？

丸井 なんかさつきから変に気い遣ってるでしょ。同い年なんだから普通にすれば？

片倉 ……あ、うん。

間。

丸井 ……バスの話だけどさ。

片倉 うん。

丸井 本人めちやくちや焦ってんのに免許の顔は真顔だったから余計にギャップが酷かったんだよね。押しつけるたびに真顔と目が合うの。

片倉 あはは。

丸井 何笑ってんの？

片倉 え、まだ言うのそれ。

丸井 冗談。

片倉 あ、そう……。

丸井 片倉はなんかかないの？ 面白い話。

片倉 えっ？ 面白い話？

丸井 そう。

片倉 ……いや、特には……。

丸井 ……あっそ。

二人、しばらく無言で絵を描く。

2

片倉 ……丸井さんはなんで補習になったの？

丸井 ……頭が悪いから。

片倉 ……美術に頭関係なくない？

丸井 その言い方は美術に対して失礼じゃないの？

片倉 いや、それはまあ。……あ、言いたくないならいいんだ。ちょっと気になっただけだから。

丸井 ……あんたと同じ。出席が足りなかったから。

片倉 ……そっか。

間。

丸井 美術以外にも補習あんの？

片倉 え？ あ、うん。午前中に英語と数学やって……あとの教科は課題もらったりとか。

丸井 まあ全部補習つてわけにもいかないよね。

片倉 うん……。あの、丸井さんは？

丸井 私？ 私は美術だけ。ほんとは美術もギリギリセーフを狙ってたんだけど計算間違えちゃって。

片倉 あ、そうなんだ。

丸井 あと一回出てれば問題なかったんだけど。

片倉 そういうのってわかるの？

丸井 たいていは聞けば教えてくれるよ。渋る教師もいるけど。

片倉 へー。

丸井 自分があとどれくらいとか知らないの？

片倉 え、うん。いちいち全部聞くわけにもいかないし……知ったからってそれで何かするわけでもないし……。

丸井 ふーん。

間。

片倉 ……あの、クラス……三組ってどんな感じ？

丸井 え？ 別に……普通？

片倉 あ、そうだよね。

丸井 まあめんどくさい奴もいるけど。でも別に変に絡んでくるわけじゃないし、良くも悪くもない。普通。……あ、担任はウザい。

片倉 ああうん。日野先生は知ってる。去年も担任だったから。

丸井 へえ。……担任とは話してんの？

片倉 お母さんは定期的に連絡とってるみたいだけど、私はたまにその電話口に出るくらい。そういうときって何話すの？

片倉 え……特に当たり障りない……「元気かー」、とか。

丸井 いや元気なわけじゃないじゃん。

片倉 でも別に病気とかしてるわけでもないし、「まあ、はい」って感じで。

丸井 お互い会話下手くそか。

片倉 細かく色々聞かれたり責められたりするの困るから、助かるっていえば助かるけど。

丸井 ふーん。

片倉 ……日野先生、クラスで何か言ったりしてる？

丸井 何かって？

片倉 えと、私のこと。

丸井 何も。

片倉 ……そっか。

丸井 それが正解だと思うけどね。どんな言い方しても特別扱いしてる感じがして反発する奴が出てきそうだし。

片倉 あ、ううん。別に扱いに不満があるとかじゃなくて、その、ちょっと気になっただけ。

丸井 ……そう。

間。

片倉 ……あ、面白い話！

丸井 え？

片倉 さっき面白い話ないかって。

丸井 ああ。

片倉 えっと……。

丸井 ……何？

片倉 あ、言っているのかな。

丸井 そんなに溜めるとハードル上がるけど。

片倉 いや、そんなに面白い話じゃないんだけどね。

丸井 いいからはよ言え。

片倉 あ、うん。……今日学校に来るとき歩いてたら、正面の方からおじさんが歩いてきたのね。下は短パンで、上は、ランニングっていうの？ こう、袖のない白いシャツ。周りには他に誰もいなかったんだけど、なんかぶつぶつ喋ってる感じで……。

丸井 それほんとに面白い話？ 怖い話じゃなくて？

片倉 え、うん。……で、なんて言ってるのか気になってすれ違うときに耳を澄ませしてみたんだけど。

丸井 あんた結構すごいね。私だったら道変えるけど。

片倉 え、そうかな。気にならない？

丸井 まあ気にはなるけど。

片倉 だよね。気になるよね。

丸井 で？

片倉 え？

丸井 で？

片倉 え、何？

丸井　なんて言ってたの？

片倉　あ、ごめん。そうだよ。そう。おじさんとすれ違うとき近くで聞いてみたんだけど

……「やあ、僕ピカチュウだよ。一緒に遊ぼう」って。

丸井　……。

片倉　なんか練習してるみたいで、言い方とか高さ変えて同じ台詞を何度も何度も……。

丸井　……。

片倉　……終わり、だけど。

間。

丸井　……それ、面白いと思ってるの？

片倉　あ、ごめん、面白くなかったかな。私的にはすごい面白かったんだけどでももし

丸井　面白いじゃん。

片倉　……心臓が悪い。

丸井　ごめんごめん。

片倉　でもやっぱり面白いよね。そもそもおじさんはピカチュウじゃないし、ピカチュウに似せる気も微塵もなかったし、だいたいピカチュウは喋らないだろっていう。

丸井 ネタは面白くても解説したら寒いから。

片倉 ……ですよね。

丸井 ってかよく今日遭遇したね。私そんな人見たことないけど。

片倉 運がいいのかな。

丸井 いや良くはないでしょ。

片倉 ……確かに。

二人、しばらく無言で絵を描く。

3

丸井 ……ちよっとトイレ。

片倉 ……あ、うん。行つてらっしゃい。

丸井、スケッチブックを机に伏せて出ていく。

片倉、自分のスケッチブックを持ち上げ、遠ざけて見たりして確認するよう

な動きをする。

その間に丸井のスケッチブックをちらちら見る。

丸井が出ていった方を確認し、丸井の机に近づいてスケッチブックに手を伸ばそうとするが、自制してやめる。

手を伸ばして引っ込めるのを何度か繰り返した後、結局手をかけてゆっくり持ち上げていく。

その途中で、床にゴキブリがいることに気づく。

片倉

ギャー！

片倉、勢いよく自分の机側に走っていく。

丸井が戻ってくる。

丸井

……何してんの？

片倉

……そこ。

丸井

……何？

片倉

ゴ……アレが。

丸井 アレ？ なんなの？

片倉 あれ！ G！

丸井 G？ ……ああ、ゴキブリ？

片倉 （何度もうなずく）

丸井 ゴキブリぐらいで大げさすぎでしょ。

片倉 平気なの？

丸井 たかが虫じゃん。

片倉 すごい……。

丸井 なんもすごくないから。別にゴキブリなんてたいしたことギャー！

丸井、片倉とは反対側に飛びのく。

片倉 ……。

丸井 いきなり出てきたら驚くでしょ！ なんだって。

片倉 ……あ、うん。そうだね。

丸井 別に平気だから。

片倉 うん。わかってる。

丸井 何か……叩くもの……。

丸井、ゴキブリを見据えたまま手探りで机の上を探し、スケッチブックを手に取って頭上に掲げる。

片倉、それを見てギョツとし、止めようとするが言葉が出ず近づくこともできな

きない。
丸井、スケッチブックを勢いよく床に叩きつける。

丸井 ……外した。

片倉 (ほっとする)

丸井 あ、これ課題じゃん。

片倉 気づいてなかったの？

丸井 危うくあなたの顔に貼りつくところだったね。

片倉 やめて！ 想像するだけで悪寒が……。

丸井 大げさ。

丸井、席に着く。

片倉 ……どこ行ったの？

丸井 外出ていった。まあ気にしなくて大丈夫でしょ。

片倉 いや気になるよ。

丸井 どうせ他にもわんさかいるんだから。あの一匹を気にしたところでなんの意味もない
つて。

片倉 ええー、恐ろしいこと言わないでよ……。

丸井 また出たら今度こそ潰してあげるから。あんたの顔で。

片倉 それは絶対やめて。

丸井 んじゃまあ出ないことを祈るんだね。

片倉 丸井さんは虫とか全般大丈夫なの？

丸井 まあ積極的に関わりたとは思わないけど、どうしても無理ってほどではない。

片倉 へえー。私は絶対無理だから家を出たりしたらすぐ親呼んじやう。

丸井 育った環境もあるのかもね。

片倉 環境？

丸井 何かあっても基本一人で片付けてたから。人に頼るって選択肢がそもそもなかったし。

片倉 ……えつと……。

丸井 ……借りを作るのが嫌なだけ。その方が気楽でしょ。

片倉 ……あ、うん。そうだね。

丸井 一度森の中とかで寝泊まりしてみたら？ きっとゴキブリなんか気にならなくなるよ。

片倉 それはちよつとハードル高くない？ 別に虫を克服したいわけじゃないし……。

丸井 あっそ。

二人、しばらく無言で絵を描く。

4

片倉、手を止めてスケッチブックを持ち上げ、丸井と見比べたりする。

丸井 ……何、もう描けたの？

片倉 え、うん。とりあえずは。

丸井 へえ。見せてよ。

片倉 ええ……あんまり上手くないから恥ずかしいんだけど。

丸井 上手い絵なんて最初から期待してないから。お互い素人なんだし。私のも見せるからさ。

片倉 えー……じゃあ、はい。(見せる)

丸井 え……下手……。

片倉 そういう素のリアクションが一番傷つく！

丸井 え、本気？

片倉 至って真面目に描いたつもりだけど……。

丸井 目が三つあるじゃん。

片倉 (見て) いやこれ鼻だから。わかるでしょ。

丸井 え、口じゃないんだ。

片倉 二重に酷い！

丸井 この下手さはさすがにちよつと擁護できないわ。

片倉 あんまり上手くないって言ったじゃん。

丸井 いや上手くないから恥ずかしいっていうのは上手い人の前フリだから。普通に下手だなんて思わないじゃん。

片倉 そんなこと言われても……。

丸井　しかも「あんまり上手くない」っていうのがまたほんとはちょっと上手いと思ってそう。

片倉　思っていない思っていない。

丸井　そう？　じゃあまあそういうことにしとく。

片倉　……丸井さんのも見せてよ。

丸井　えー？　まだ途中なんだけど。

片倉　見せるって言ったじゃん。

丸井　あんまり上手くないから恥ずかしいなあ。

片倉　いいから。

丸井　はい。(見せる)

片倉　いや私より酷くない!?

丸井　そう？

片倉　耳が四つあるし。

丸井　んなわけないでしょ。(見て) あ、ほんとにある。

片倉　なんでそんなことになるの。

丸井　あんたが頭を安定させないから。

片倉　だからってそうはならないでしょ。

丸井 なってるんだからしょうがないじゃん。

片倉 人のこと散々下手下手言っついて……さっきまでの話はなんだったの。

丸井 自分が上手くないと批判しちゃいけないなんてことはないでしょ。

片倉 それはまあそうだけど……いやでもそれ、ウチの弟が描いたのと同レベルだよ。

丸井 ……片倉、弟いるんだ。

片倉 あ、うん。年離れてて、まだ小さいんだけど。

丸井 ……そう。

片倉 ……？

丸井 ……途中のつもりだったけどもうこれでいっか。

片倉 耳が四つで!?

丸井 ちゃんと消したよ。

片倉 あ、そう。でもいいの？

丸井 そもそも上手く描く意味ないし。描いたって事実が重要でしょ。

片倉 ……そっか。あ、じゃあ水汲んでくるね。

丸井 は？

片倉 水。丸井さんの分も持ってくるよ。

丸井 何に使うの？

片倉 え？ 絵の具用のだけ。

丸井 絵の具？ え、鉛筆で描いて終わりじゃないの？

片倉 あれ、言ってなかったっけ。絵の具使うって。

丸井 聞いてない。

片倉 ……ごめん。

丸井 ……いいよ。やればいいんでしょ、やれば。

片倉 ……えっと、じゃあ汲んでくるね。

片倉、バケツを二つ持って出ていく。

丸井、片倉の机に近づき机の上の本を手取る。

丸井 『異世界に転生したニートが根暗パワーで魔王になって世界征服した件』。

丸井、そっと本を机に置く。

片倉が戻ってくる。

片倉 はい。(バケツを渡す)

丸井 ……ありがとう。

片倉 あとこれも。

片倉、机にあった絵の具セットを丸井に渡す。

丸井、受け取って席に戻る。

二人、話しながら準備をし、絵の具で色を塗っていく。

丸井 ……本、好きなの？

片倉 え？ ……ああこれ？ まあそうだね。本読むのは好きかな。

丸井 ふーん。

片倉 丸井さんは本とか読むの？

丸井 まあちよつとは。

片倉 え、どんなの読むの？

丸井 好きなのは昔のSFかな。アシモフとかホーガンとか。最近のはあんまり読んでない。

片倉 へー……。

丸井 ……知らないよね。

片倉 あいや、名前は聞いたことある、気がする。

丸井 そ。

片倉 なんかすごいね。本格的な本読みーって感じ。

丸井 別にすごくないでしょ。好きで読んでるんだから。

片倉 えー、そうかな。私なんかライトノベルばっかだし、これで本好きとか言うのが恥ずかしいっていうか……。

丸井 読むジャンルで差別するのって馬鹿らしくない？ SFだって純文学とかから馬鹿にされたりするけど、結局本は本じゃん。好きな読めばいいんだよ。

片倉 ……丸井さんってすごいね。

丸井 だからすごくないって。

片倉 SF 読んでることがじゃなくて、考え方が。私はすぐ周りを気にしちゃうから。さっきクラスのこと聞いたのとかもそうだけど。

丸井 ……。

片倉 ……学校もね。行かなきゃって思うんだけど、これだけ休んでるからさ。私が行ったらみんなどう思うかとか考えだしたら無理ってなっちゃって。

丸井 ……いつから来てないの？ 一年のときは来てたんでしょ？

片倉 休みだしたのは今年の二月くらい。……最初はね。ほんとにたいしたことじゃなかったんだ。英語の授業で、隣の人と最近の出来事について会話しましょう、みたいな

があつて。私の隣の人がね。この前買ったコスメがーとかスタバの新作がーとか、確かそんな話してた。

丸井 別に普通じゃない？

片倉 普通だよ。でも私はそういう普通の会話ができないってそのときすごく思ったんだ。コスメもスタバもわかんないし、かといってアニメとかゲームの話したら引かれるんじゃないかって。……結局そのときは昨日の夕飯とか朝何時に起きたとか、そんな感じの話したと思う。

丸井 いいじゃんそれで。ただの授業なんだから。

片倉 うん。そうだよ。……だけど後になって、つまらない奴だつて思われたよとか、あのとかなんて言えば良かったのかとか、ずっとどうじうじ考えちゃつて……別に人として上手く話せないなんて今に始まった話じゃないのに、考えだしたら止まらないんだ。どうしたら普通に会話ができるんだろうって。

間。

丸井 ……スタバ行けば？

片倉 ……実は行こうとしたんだけど。

丸井 え、マジで？

片倉 でも行けなかった。周りの客が、店員が、通行人が、話を聞いたクラスメイトが、みんながスタバに入る私を馬鹿にするんじゃないかって思いがずっと頭の中をぐるぐるしてた。

丸井 ……。

片倉 我ながら馬鹿らしいと思うよ。でもそこで動けなくなっちゃった。周りの目を気にして変わろうと思ったけど、その先でも周りを気にしちゃってコスメも買えなかったしスタバにも行けなかった。どうしようもなく苦しくなって一日休んで、二日休んで、三日休んだら今度は休んだのが理由で休みから抜けられなくなっちゃった。

間。

片倉 ……丸井さんが羨ましい。周りを気にしないで自分の気持ちをはっきり言える、そういう強さが、私も欲しい。

間。

丸井 ……強さ、ねえ。

片倉 ……。

丸井 私が気にしないのはさ、強いからとかじゃなくて、単に周りも気にしないと思うからなんだよね。

片倉 ……どういうこと？

丸井 人間は他人にそこまで関心がないってこと。あんたが何しようが誰も何も気にしないよ。

片倉 そうなのかもしれないけど……。

丸井 実際あんただって自分のことは色々気にしてるけど他人のことには興味ないでしょ？

片倉 そんなことは……。

丸井 たとえばよく知らないクラスメイトが急に丸坊主とかにしてきたとして、そのときは驚くかもしれないけど次の日にはたぶんどうでもよくなってるでしょ。

片倉 ……それは、まあ。

丸井 あんたが学校に来たとして、そりゃ最初は奇異の目で見られるだろうけど、すぐに誰も気にしなくなる。

片倉 ……そうかな。

丸井 そうだよ。

片倉 ……。

丸井 別に変なことするわけじゃないんだから。あんたが教室に入ったって、誰もそれをとがめたりしない。

片倉 ……うん。

丸井 人と話すのだって同じだと思う。片倉が思うほど人は人のことを気にしない。話し方がぎこちなくても、内容がつまなくても、そんなの相手にとってたいしたことじゃないしすぐ忘れる。いちいち話すことを気にしなくていいんだよ。普通の会話ってそういうことでしょ？

片倉 ……でも……。

丸井 変に構えないで頭空っぽにして話したら案外上手くいくもんだよ。それでもどうしても話のきっかけが欲しいならそれこそスタバにでも行けばいいんじゃないの？

間。

片倉 ……丸井さんっていい人だね。

丸井 ……どうしてそうなるわけ。

片倉 こんなに親身になってアドバイスをくれた人いなかったから。

丸井 ……私は思ったことを言っただけ。言っただでしょ。私は相手がそれをどう受け取るか

なんてどうでもいいの。

片倉 そっか。…でも、ありがと。すぐ実践できるかはわからないけど、気持ちはだいぶ
変わった気がする。

丸井 あっそ。

片倉 とりあえず今はこの絵を完成させなきゃね。色々考えるの終わってからにするよ。

丸井 それが賢明かもね。

二人、しばらく無言で絵を描く。

5

片倉、集中しだすと最初のように顔を近づけて描く。

丸井がそれに反応して手を止めるが、しばらくして片倉の顔が上がってくる

(描くのは続けている)。

片倉 ……丸井さんはさ。どうして授業休んでるの？

丸井 何、突然。

片倉 さっき計算して休んでるみたいな話してたでしょ。何か休む理由があるのかなって。

丸井 ……そんなの、遊んでるに決まってるでしょ。

片倉 ……あ、そうなんだ。

丸井 あんたみたいに引きこもってるだけでも思ったの？

片倉 いや、そうじゃないけど……ちよつと気になって。

丸井 ほんとなんでも気になるんだね。あんたは。

片倉 面目ない……。

丸井 別にいいけど。

片倉 ……遊ぶってどんなことするの？

丸井 え？ ……カラオケとかウインドウショッピングとか……。

片倉 あ、スタバとか？

丸井 馬鹿にしてんの？

片倉 ごめん。わりと真面目に言ったんだけど……。

丸井 ……あとは、図書館はよく行くかな。

片倉 なるほど。

丸井 駅前の図書館がリニューアルして居心地良くなったんだよね。蔵書も充実してるし。

片倉 あ、カフェが併設されたっていうところ？

丸井 そう。

片倉 あそこスタバじゃなかったっけ。

丸井 いやスタバはどうでもいいから。本読みたいから行くの。

片倉 平日に外歩いてて補導とかされないの？

丸井 私は一回もないね。堂々としてれば周りも特に不審に思わないもんだよ。

片倉 へえー。私もやってみようかな。

丸井 ……あんたの場合一発で捕まる未来しか見えないけど。

片倉 ……私もそんな気がする。

二人、しばらく無言で絵を描く。

やがて丸井が手を止める。

丸井 ……これだけ描けてれば文句ないでしょ。

片倉 ……あ、できたの？

丸井 うん。

片倉 私も、あとちょっと。

丸井 そう。

丸井、スマホをいじりだす。

やがて片倉も手を止める。

片倉 ……うん。完成。

丸井 ……もうこれ以上やる作業ないでしょうね。

片倉 あ、うん。絵の具で色塗ったら終わり。

丸井 やつとこの面倒な時間から解放される。

片倉 お疲れ様でした。

丸井 あんたもね。

片倉 ……でも、丸井さんと話せて良かった。最初はどうなることかと思ったけど、私はこの補習にちよつと感謝かも。

丸井 私は感謝なんて微塵もないけど。

片倉 ……だよね。

丸井 まあ思ったほど苦痛ではなかったかもね。

片倉 ……なら良かった。

丸井 ほら、さっさと出しに行って終わらせよ。いい加減早く帰りたい。

片倉 あ、うん。

二人、周りを軽く片付ける。

片倉 丸井さんはこれからどっか遊びに行くの？

丸井 え？ ……あー、そうだね。まだ時間あるし、どっか適当に。

片倉 そっか。

二人、スケッチブックを持って出ていこうとする。

片倉が立ち止まり、丸井がそれに気づいて振り返る。

丸井 ……何？ 行かないの？

片倉 ……ちょっと引つかかってて。

丸井 何が？

片倉 ……丸井さん。丸井さんが学校休むのって本当に遊びたいからなの？

丸井 ……そう言ったでしょ。

片倉 うん。でも……でも私、丸井さんがただ遊びたいだけで休むとは思えなくて。別に学校サボって遊ぶのが悪いとかって話じゃなくて、なんか違和感っていうか……。

丸井 あんたが私をどう思おうが勝手だけど、変な理想押しつけるのはやめてよね。私はあんたの言ういい人なんかじゃない。

片倉 理想……そうなのかも。私はまた勝手に気になって自分の中にもしもない妄想を作り出してるだけなのかも。

丸井 あんたはその癖を治したいんですよ。だったら……。

片倉 だけど、今日丸井さんと話して、丸井さんがどんな人なのか少しは知れた気がする。私が今まで周りの目を気にして臆病になってたのとはちよつと違うんじゃないかって思うんだ。

丸井 ……。

片倉 あと、なんか困ってそうな顔だなんて。

丸井 は？

片倉 (自分の描いた絵を見て) 私、こんなに人の顔をじっと見るこつて今までなかったと思う。たぶん、目を合わせるのが怖かったから。でも今日はどうしても見なきゃいけないくて……そしたら、今まで本当に相手を知ろうとしてなかったんだってわかつち

やった。目を見て話すだけで、わかることはこんなにもあるんだって。

丸井 ……。

片倉 丸井さんは、いい人だよ。

丸井、自分の描いた絵を見る。

間。

丸井 ……あんたさあ、そういうめんどくさい性格してるとそのうち不登校とかになるよ。

片倉 もうなってるから。

間。

丸井 ……親への反抗、だったんだ。最初は。わかりやすいでしょ。

片倉 ……。

丸井 ……私も弟がいるんだけど、昔交通事故に遭って歩けなくなっちゃってさ。そっからはずっと車椅子生活。事故の後親は弟にべったりで、私のことなんか見えてないみたいだった。わかるけどね。弟の方が大変なんだからそんな当たり前前じゃんって話だ

し。私も負担にならないようにいい子でいようって思ってた。それまでよりちょっと頑張ってみたりなんかして。……でもそういうのもあまりにスルーだからさ。イライラしてきちゃって。一回学校サボったら母親に電話行っみたいですが、怒られたよ。ただでさえ弟のことで大変なのに申し訳なくて……でも同時に、久しぶりに親が自分の方を見てくれたって気がしてた。

片倉

……うん。

丸井

学校って一回サボるまでは罪悪感ものすごいけどさ。二回目以降はそんなになんだよね。二回三回って繰り返していくうちに抵抗はどんどんなくなってた。でもそれって周りも同じでさ。親も教師も、だんだん「またか」って感じになるわけ。私が何をしても気にしなくなっていく。言ったでしょ？ 人は他人にそこまで関心がないんだって。結局、親だって他人だよ。

片倉

丸井さん……。

丸井

……弟ね。ずっとリハビリ頑張ってた、ついこないだ車椅子なしでも歩けるようになったんだ。私が学校サボる理由なんて本当はもうない。でも、今更やめられない。……やめられないよ。

間。

丸井 ……これで満足した？

片倉 うん。話してくれてありがとう。

丸井 ……それだけ？

片倉 ……本当はね。何か丸井さんの力になればって思ったんだけど、私にできることは何もないなって。

丸井 何それ。

片倉 だって丸井さん、学校サボる理由なんてないって自分で言ってたじゃん。

丸井 今更やめられないとも言ったはずだけど。

片倉 やめられるよ。

丸井 え？

片倉 学校に来ればいいんだよ。別に変なことするわけじゃないんだから。

丸井 あんたやっぱり私のこと馬鹿にしてんの？

片倉 丸井さん言ったよね。人は人のことを気にしない。どうでもいいことはすぐ忘れるって。だったら丸井さんのお母さんだって丸井さんが学校サボって怒ったこと忘れてるよ。

丸井 そんなわけ……。

片倉 そうじゃなかったら……丸井さんに対して無関心なんかじゃないんだとしたら、きつと許してくれる。どうしても自分の中で引つかかるなら、今までごめんって、それだけ言えばいいと思うよ。

丸井 ……。

片倉 人は無関心だって丸井さんが言ってくれたおかげで私はすごく楽になれたけど、きつと人はそんなに単純じゃない。家族ともなればなおさらだね。丸井さんはもっと家族を、自分を信じてみてもいいんじゃないかな。

間。

丸井 ……あんたさあ。そういう話は自分が学校来てから言いなよ。

片倉 ……ごめん。

丸井 ……私も学校、もうちよつと顔出してみるからさ。

片倉 ! ……うん。

丸井 はあ……なんだかまんまと乗せられた感じ。

片倉 そんなことないよ。私が何も言わなくても結論は出てたと思うし。

丸井 そうだね。

片倉 ……そう言い切られるとそれはそれで複雑なんだけど。

丸井 冗談だよ。……さて、じゃあ今度こそ出しに行こうか。

片倉 うん。……あ、ちよつと待って。

丸井 何、まだなんかあるの？

片倉 名前。書くの忘れてた。

丸井 あー名前。どこに書くの？

片倉 絵の余白に適當につて。

二人、席に着いて自分の描いた絵に記名する。

丸井 ……あんた下の名前なんていうの。

片倉 え？ 玖未……あ、自分の名前書くんだよ？

丸井 ……先に言ってよね。

片倉 ごめん……。

丸井、できた絵を改めて眺める。

丸井 あんた今日この後は？

片倉 ……これで今日の分の補習は終わりだから帰るだけ。……あ、スタバ、行こうかな。

丸井 はあ？

片倉 せっかくだし。勢いづけていうか……なんか今なら行ける気がする。

丸井 ふーん。……じゃあ一緒に行かない？

片倉 え？

丸井 私も暇だし。一人で行くより気楽でしょ。

片倉 あ……うん！

丸井 ここからだどどこが近いかな。

片倉 あ、駅前の図書館は？

丸井 あー、あそこスタバか。いいんじゃない？

片倉 良かった。

丸井 じゃ、その前にいい加減これに決着つけようか。

片倉 うん！

二人、スケッチブックを持って出ていく。

明るい音楽が高鳴り、幕。